



納得が行動を生む

学校教育課小中一貫教育推進係
嘱託指導主事 平野久美

様々な感動を私たちに与えてくれた17日間のソチオリンピックが閉会しました。

十日町市の小中一貫教育も平成23年度から試行3年目をもうすぐ終えようとしています。最終年度の今年、本格実施前の基礎データとして、教職員・保護者・子どものアンケート調査を実施しました。教職員用アンケートの第1項目は「中学校区の取組や小・中学校のつながりを意識して教育活動に取り組んでいると思いますか。」でした。全市、アンケート回答職員は484人。その結果は以下のとおりです。

- | | |
|-------------------|--------------|
| ①「そう思う」 | 36.2% (175人) |
| ②「どちらかといえばそう思う」 | 54.7% (265人) |
| ③「どちらかといえばそう思わない」 | 8.9% (43人) |
| ④「そう思わない」 | 0.2% (1人) |

肯定的評価が90.9%です。これは、かなり高い数値です。各中学校区の取組が進み、小中一貫教育の取組が具体的に職員各人に見えてきたことの表れではないかと、ありがたく、嬉しく思います。

しかし、自分のことを振り返ると、②の「どちらかといえばそう思う」という数値は曲者であると考えられるのです。これまでの人生で、アンケートに回答する時、「どちらかといえば」という言葉は、自分の立ち位置がはっきりしない場合、「どちらかといえば、まあ、こっちなかな」などというような判断で使えて、とても便利なものでした。「どちらかといえば」の言葉は、そういった危険性を孕んでいると思うのです。

本格実施となる26年度に、いかに②の職員が、①と回答できるように変わるかは、取組の充実を大きく左右します。具体的には、自中学校区の子どものために、小中一貫教育という切り口から、職員一人一人がそれぞれの立場で、自分は何をするのか（どんなことに力を入れたり工夫したりするのか）を明確に意識しながら教育活動に取り組む姿の実現が、中学校区の力として取組に大きく作用するということです。

今年度末で、どの中学校区でも26年度の計画が出来上がります。この計画に命を吹き込むのは、その中学校区の職員一人一人です。そのためには、中学校区では、取組計画のみならず、いかに職員の意識の共有を図り、取組意欲を高めていくかという策を持つことが肝要です。

各指導者や各学校の特色ある取組がなされることは当然です。こういった教育の営みは、多様です。小中一貫教育は、その多様な営みの中の、わずかに限られたいくつかの取組を中学校区で一貫して取り組むわけです。何故、何のためにこれをするのか。そのことに対する納得が力強い行動を生み出します。

十日町市には、自分の夢を実現し、ソチオリンピックに出場した選手が3人もいます。そんな土壌のある十日町市で、子どもたち一人一人に夢を育み、各人に各人の夢を実現させるべく力をつけてやれたらと、改めて思わされたこの頃です。

試行を振り返って **これだけは伝えたい** 小中一貫教育!!

もうすぐ、十日町市の小中一貫教育の3年間の試行期間が終わります。2月・3月号では、モデル中学校区に勤務して取組にかかわった方々のメッセージを連載でお伝えします。体験から実感した「これだけは伝えたい」ことに焦点付けて書いていただきました。本格実施に向けた、貴重な提言が盛りだくさんです。



できることを無理なく

千手小学校長 **樋口弘之**

モデル中学校区に指定されて変化が見えてきた。第一に子ども。小学生は中学校進学への不安が少なくなった。交流会で小学生と中学生と一緒にゲームをする、部活動体験で先輩から教えてもらう、乗り入れ授業で中学校の先生から指導を受ける等を通して、中学生の優しさが伝わりあこがれが膨らんだ。次に教師。乗り入れ授業や補充学習、合同研修を通して、教員同士の親しみが増し、小・中学校の文化の違いを理解できるようになった。指導の工夫・改善の意識も高まった。しかし、課題も多い。交流に時間的ロスが多い、教員数が限られているため負担が大きい等々。諸先輩が残してくれた取組を大事にし、数パーセントの改善を図りながら、できることを無理なく進めていくことがポイントとなる。



目に見える活動で成果を実感し、小中一貫教育の理解促進を

田沢小学校長 **渡邊雅之**

昨年度、地域の青少年育成委員会で「明るく元気な挨拶ができる中里の子どもたち」を目指そうということになりました。これなら各学校や保育園が無理なく共通して取り組むことができ、保護者や地域の皆様からも御協力いただけると考えました。のぼり旗や標語の作成、地域への広報活動、中学生による出身小学校での挨拶運動など、可能な限り目に見える活動を計画しました。先日、育成委員会で活動の振り返りを行いました。委員の皆様からは、挨拶がよくなったという肯定的な評価と、来年度はこんな取組もできるといった前向きな提言をいただきました。

子どもたちや保護者、地域、そして何よりも私たち教職員が成果が上がったと実感できる取組をしたいものです。また活動の視覚化を図ることで、保護者や地域の皆様から小中一貫教育を御理解いただくことが大切であると考えています。



小・中学校のスムーズな生徒指導の接続を考える

下条中学校教頭 **庭山 敦**

小中一貫教育モデル地区としての3年間の取組を振り返り、今後の小中一貫教育を継続、発展させていくためには、生徒（生活）指導についての小中の接続が重要であると痛感しました。具体的には、次の三点です。第一に「温かく育てる」（安心できる居場所づくり）、「適切に鍛える」（生活現実に正対させる、厳しさのある学級づくり）。第二に「個別に教える」（個別指導の充実）、「総合的に教える」（集団訓練、子ども主体の自治活動等）。

第三に「公平、機会均等で役割を果たす」（一人一役の係）、「競争原理、リーダー育成」（切磋琢磨し、互いを磨く）。

以上の指導について、小・中学校で力の入れ方を相互に理解し合うことが今後の小中一貫教育を継続、発展させていく上で、重要になると思います。



子どもは地域の宝 ～地域で育てる地域の宝～

松代小学校教頭 市川 正

「小中一貫の教育活動」とても心地よい響きを持った言葉ではないでしょうか。3か年の試行にかかわって、私なりの感想（提言とはなり得ませんが）を述べさせていただきます。

第一としてまず、9か年を見通して育成したい、育成しなければいけない児童・生徒像を明確にし、達成についての方策等について教員同士が共有できることが大切です。

第二として、地域の教育力の活用（人・物・環境）と、学校の教育活動が地域の人々に見える活動となることが大切です。

第三として、地域と学校の一体化により、「地域の宝を地域で育てる」という意識を醸成していくことが大切なのではないでしょうか。

次年度から本格実施される小中一貫教育の教育活動、確実な成果を期待しております。



「できない！」から「どうしたらできるか？」へ

下条小学校教諭 五十嵐哲也

小中一貫教育を推進するために重要なのは、教師の意識改革です。

「できない！」というマイナス思考から、「どうしたらできるか？」というプラス思考に転換することが必要です。例えば、「○月中旬ごろやりましょう」という予定では、予定近くに日程調整をすると「○○があるから…」となります。年間行事予定に「○月○日」ときちんと位置付けることが大切です。また、各校が「その日は職員会議があるから…」と主張することも考えられます。年間行事予定で、各校の職員会議日を揃えることで時間を確保することもできます。

このように、「どうしたらできるか？」と知恵を出し合うことで、小中連携の活動も小中一貫の活動も進めていくことが可能となります。



今までの財産を生かして取り組んだ小中一貫教育

上野小学校教諭 細木久也

3年間、小中一貫教育を推進してきた感じたことは、この川西地域には小中一貫教育を進めるための多くの財産が既に存在していたということです。例えば、旧川西町時代から続いている教職員協議会の様々な組織や事業、人権教育の研究大会から継続して取り組まれている人権カレンダーやふれあいの日、3校の小学校で行く連合修学旅行等々、たくさんありました。そこで当地域は、これらの取組を小中一貫教育の基盤や、9年間を見通した視点で見直し、運営していくことからスタートしていきました。今振り返ると、新たなものをゼロから作り出すよりも効率的で効果的だったように感じます。そして、小中の互いの文化を少しずつではありますが理解でき、教員の交流も盛んになったことも大きな成果と感じました。これらの成果が、川西地域の児童生徒の成長につながっていると実感しています。



しよっちゅう一貫

先進地に学ぶ

<「小中一貫教育全国サミット in 姫路」の期日が決まる>

次年度の全国サミットは姫路会場で、平成26年10月30日（木）・31日（金）に開催されることが決定しました。

詳しい案内は、8月に頃示されます。姫路市公開の授業は、当市と同様の分離型・併設型のタイプの中学校区の取組です。似たような状況での取組。参考になることが多くありそうです。



小中一貫教育にかかわる3月の活動予定



毎月ここに掲載している活動予定は、どなたでもその活動を見ていただけるように紹介しているものです。時間を見つけて、ぜひお出掛けください。その際には、当該学校へ一声掛けてからお出掛けください。

日 時 <内容>	会 場	見 どころ
12日（水） <会議> 14：30～16：30	田沢小学校	・中里中学校区では、平成26年度の小中一貫教育の取組にかかわる最終審議を校長・教頭合同会議で行います。
13日（木） <出前授業> 9：30～10：15	中条小学校	・拡大中学校区では、この時期に出前授業を行っています。今回は、十日町中学校の指導者が「元気生活教室」にかかわる授業を中条小学校で実施します。対象は小学5・6年生です。
14日（金） <推進会議> 10：30～12：00	松代中学校	・松代中学校区では本年度最後の推進会議を実施します。平成26年度の組織及び活動計画の検討を行います。
中旬（期日未定） <出前授業>	東小学校	・拡大中学校区の出前授業。今回は十日町中学校・中条中学校の英語指導者が東小学校で英語活動の出前授業を実施します。対象は小学6年生です。
17日（月） <合同職員会議> 15：30～16：40	下条中学校 ランチルーム	・下条中学校区では、本年度最後の第4回合同職員会議を実施します。校舎接続に伴う小中一貫教育の日常化の視点から、児童・生徒の動きの共通理解を図ったり、本年度の反省と次年度の改善について検討したりします。